

IIAS 国際会議の参加報告

平成 28 年 9 月 26～27 日に、ロシア・ウラジオストクの Far Eastern Federal University (FEFU、極東連邦大学) において International Institute for Asian Studies (IIAS) による国際会議 “Around the Changbai mountains: A seminar on the narratives of the ethnic groups in Northeast Asia” が開催されました。

本会議では、開催地のロシア、IIAS の本拠地であるオランダをはじめ、ドイツ、中国、オーストラリアからの発表があり、人間文化研究機構 (NIHU) からは小長谷理事、および北東アジア地域研究の拠点より合計 7 名が参加しました。

北東アジア地域研究の拠点からの発表は以下の通りです (プログラム順)。

辛嶋博善 (Hiroyoshi Karashima) : Collision and “the Point of Compromise” in a Mongolian Pastoralists’ Society (モンゴルの牧畜社会において、定住地へ移住しようとする牧畜民と結婚したいと考える牧夫の衝突と、その衝突が解消し、両者の思惑が両立するに至った経緯を提示した。)

高倉浩樹 (Hiroki Takakura) : An Anthropological Encounter of a Japanese Castaway in the 18th Century Siberia (18 世紀末の漂流民である津太夫とその記録である「環海異聞」に焦点をあて、当時の日本人がどのようにシベリア先住民及びロシア人社会を認識していたのか明らかにするとともに、漂流民の問題を北東アジア文化交流史として捉える必要性を論じた。)

岡洋樹 (Hiroki Oka) : Between Ally and Suppressor: The Manchu Rule over the Mongols in Mongolian Historiography

佐々木史郎 (Shiro Sasaki) : Ethnic Boundaries of the Indigenous Peoples in the Lower Amur Region in the 19th and 20th Centuries

伊藤岳 (Gaku Ito) : International Trade and Disputes in Northeast Asia: Disaggregating Commodity-, Region-, and Period-Specific Effects (1962-2000 年の国際関係のデータセットを用いて、国際貿易・相互依存と国際紛争との経験的な関係性を巡る初歩的な実証分析を提示し、北東アジアにおける国際貿易・相互依存と国際紛争の特殊性を明らかにした。)

前田しほ (Shiho Maeda) : (Post-)Soviet Monuments as a Political Space: National History, Removal, and Affection (権威主義的な印象の旧ソ連のモニュメントも、ナショナル・シンボルとなるためには民衆の同意が必要である。本発表では、戦争についての記念碑と民衆

の記憶について論考した。)